

第4回

自閉症の子どもたちの 教育実践を交流する会

今年度も残すところあと1ヶ月となりました。毎回30名近い参加者で充実した交流会をすすめてきましたが、いよいよ今年度最終回となります。今回は京都市の支援学校からの報告をもとに交流を深めます。高等部の生徒の事例を通して、子どもの育ちや指導上大切にしたいことをみなさんといっしょに考えていきたいと思えます。年度末のお忙しい時期ですが、ぜひ、誘い合ってご参加ください。

<日時> 3月10日(土)10時～12時

<場所> 京都教育文化センター 202号室

*京阪神宮丸太町駅から徒歩5分

<レポート報告> (京都市総合支援学校) 高等部の実践より
「M子さんの成長」

重度の自閉症のM子さん。
他傷行為のため、個別学習の場面が多かったのですが、子ども集団の中でこそ成長させていきたい、という願いの下に、とりくみをすすめています。

<共同研究者> 井上洋平先生
(奈良教育大学)

<参加費> 500円
(おかし&のみもの付)

*事前申し込みは必要ありません。
・どなたでも参加できます。

*問い合わせ:075-751-1645

第3回「自閉症の子どもたちの教育実践を交流する会」報告

1月の第3回目は、八幡支援学校小学部からのレポート報告をもとに交流しました。特別支援学校での経験は2年目という若い先生と久しぶりに自閉症の子どもたちのクラスを受け持つというベテランの先生がA君と歩んできた10ヶ月間の実践の中での疑問や悩み、また子どもの姿を通して学んだことなどを報告されました。報告後のテーブルごとの意見交流では、レポーターの悩みに答える形で、「引継のあり方」や「手立てをどう考えるか」といったことについて様々な意見が出されました。手立てに関しては方法論に走ってしまうのではなく、まずアセスメントでいねいに子どもの実態や内面を捉えていくことが必要ではないか、その子にどういう力をつけていってほしいのかという目的を共有しつつ手立てを考えていくことが大事では…といった意見などが出されました。

～井上先生（共同研究者）より～

毎日の教育実践には、「なんでこうするの?」「どうして?」といった疑問をゆっくりと自分の中にあたためる時間がなかなかありませんよね。レポートには、納得する実践を進めたいという報告していただいた先生の思いや願いが込められていました。きっと子どもにも思いや願いがあります。両者が出会う中で、どんな実践が開けていくのか、今後の展開がおおいに期待される内容でした。また、「目的を共有し適切な手段を選ぶ」ことを前提にした実践の議論が今後繰り広げられることを

・当日の感想文より・

レポート報告ご苦労様でした。実践の中で疑問に思ったことやわからないことを若い先生が率直に出してくれたこと、とてもよかったですと思いました。実はベテランも同じことで日々悩んでいる状態だと思います。みんなが自分の実践の中での悩み、難しいなど思うことが出し合えること、本当に大事だと思います。

初めて参加させていただきました。レポートをもとに、いろいろな先生方の実践や考えを聞いて、非常に勉強になりました。

児童の実態に応じて枠、手立てを選択するという内容が改めて大切だと実感しました。色々な学校の先生方と交流できてよかったです。

自分が今担任している子どもたちに近かったり共通した悩みがあったので、身につまされる思いでした。いい報告でした。システム、アセスメント、教育としての目標、発達的に捉える、いろんなポイントを考えるよいきっかけになりました。

信頼関係の大切さ、“これでなければいけない”はない、など気づいていないことに気づくことができました。